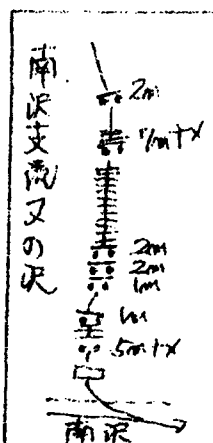


南沢支流又の沢

1988年7月23日



9:50又の沢(仮称)の遡行開始。出合の砂防ダムを越えると5mのナメ滝が出てきた。小さな沢だからあまり期待していなかったが、これを見て先に淡い期待を抱いた。しかし、その後は7mのナメ滝だけで、平凡なままで終わってしまった。10:05遡行終了。

(記・)

[タイム] 又の沢出合(9:50)→終了(10:10)

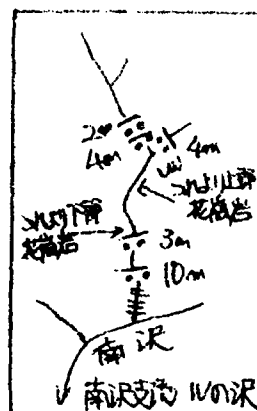
南沢支流ルの沢

1988年7月23日

ルの沢(仮称)は、出合のすぐ奥に10mの滝をかけている。水量は少ない。シャワーで直登し、その上の3mを越えると岩質が変わった。今までの花崗岩に変わって、棚倉破碎帯を構成する黒い岩の出現である。このあたりでは、黒い岩が出てくると、滝がかからなくなる。ちょっとがっかりして進むと、すぐまた花崗岩に変わった。

花崗岩の大岩が沢を塞ぐような感じで横たわっている。右側から回りこんで越えると、もう源頭であった。

(記・)

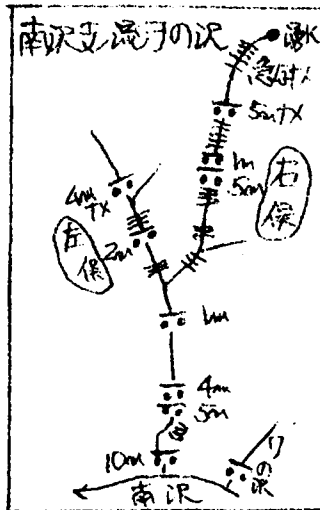


[タイム] ルの沢出合(9:15)→終了(9:25)

南沢支流ヲの沢右俣、左俣

1988年7月23日

カの沢(仮称)の遡行を終え、四ツ沢のピークを確認してからヲの沢(仮称)の下降に移ろうと、尾根上を少し歩く。しかし三角点を確認できず、四ツ沢のピークを特定できなかった。尾根上には小さな岩峰が目立ったが、位置からいって四ツ沢のピークではない。大きなアカマツのあるピークが四ツ沢のピークだろうか。



大きなアカマツのあるピークのやや北側から8:10下降開始。なだらかとはいえないが、カの沢源頭ほど急ではない斜面を下る。やがて斜面の一部が更に切れこんで、ヲの沢右俣源頭となった。わずかに清水が湧き出ている。

湧水地点から少し下ると、急なナメとなった。そしてその先は小滝が出てくる。一部ホールドが細かくてクライミングダウンとなったが、だいたいはフリクションをきかせて下る。8:20左俣出合到着。

左俣も調査のため、遡行してみる。しかし、小滝が二つ出てきただけで源頭となる。上流に行くに従って、

沢が同規模の幾筋もの支流に分かれていくのが、八溝山城の沢の特徴である。

二俣まで戻って、またしばらく平凡な沢筋を下る。やがて4m、5mと続く小滝。フリクションをきかせて下る。この先で沢が小さく曲がったと思ったら、もう南沢本流との出合であった。出合の10m滝は、左岸をクライミングダウンして本流に降り立つ。

(記)

[タイム] ヲの沢下降開始(8:10)→左俣出合(8:20)→左俣終了(8:30)→下降終了(8:40)

南沢支流ワの沢

1988年7月23日

ワの沢(仮称)は、ヲの沢(仮称)のすぐ上で本流に合流している。出合に15m、4mと続く二つの滝をかけるが、水量はごく少ない。二つの滝とも細かいホールドがたくさんあり、直登は難しくないが、ちょっと緊張した。

出合の滝を過ぎると、あとは平凡。急なナメを過ぎた所で水も濁れ、引き返すことにする。

(記)

[タイム] ワの沢出合(8:50)→終了(9:00)

